

# SEANリレーエッセイ

SEAN会員のみなさんに、お願いしているリレーエッセーです。  
最近の関心ごと、SEANとの関わりへの思いなどなど。  
会員間のつながりになればと願っています。

## 市民自治をつくるために、 主権者として行動してみよう

島本町議会議員 平野かおる

地方議会議員となつて9年目です。島本町で3人の子育てをする中で、環境や教育の問題は大きな関心事でした。里山のゴルフ場開発問題、府営水導入問題（地下水100%を誇る飲み水）、学校給食民間委託問題、日の丸・君が代強制問題等に対して議会や教育委員会への請願、住民投票条例制定のための直接請求、署名運動、ピラマキ、集会、行政交渉など、まさに「暮らしの中から政治を変える」という日々だったように思います。地域や幼稚園での○○さんの奥さんや○○ちゃんのお母さん以外の存在として、同じ考えや行動を共有できる仲間たちとのつながりは有意義で楽しく、仕事を持たない私の社会参加でもありました。

2001年4月に議員になったのは、市民派女性議員のNさんの町長選立候補が直接の理由ですが、議会は住民の意思を反映していない、議会を変えるには利権や利益団々と無縁の市民派の議員を増やさなければという強い思いがあったからです。女性議員が全国一多い議会として注目された選挙でした。その際、運動員の子どものために、SEANの保育サービスを活用させていただきましたこと感謝しています。

議員になつてからは、初めての議会質問が「セクシャルハラスメント問題」でしたので、女性差別の問題・ジェンダーの問題は当事者である私を取り組む課題であると強く認識しました。清掃工場で働く委託会社の女性が町職員による長年の被害を告発、議会では同会派の議員とともに追及し、なにより当事者の方の粘り強い闘いがあった町と職員は加害責任を認めました。庁内のセクシャルハラスメント相談、女性相談窓口の充実につながりました。

2006年制定の男女共同参画推進条例審議においては委員会でも可決させた修正案が

生きて「性と生殖に関して、自己決定が尊重される」というリプロダクティブ・ヘルスライツの視点が盛り込まれたことは嬉しいことでした。同条例の苦情処理制度を活用して「町防災会議に女性委員が一人もいないことは条例違反である」という申立てを行い、人権啓発施策審議会で認められ、女性委員が登用されたことも成果です。議会での野党的立場の女性議員に対しての理不尽な対応もまだまだ根強くあり、悔しい思いもしますが、一歩でも女性差別撤廃、ジェンダーフリーの社会に近づくために取り組んでいきます。

1票の力で政権を変えたように、市民ひとりひとりが、主権者として直接請求、監査請求、請願、苦情申し立て、審査請求、住民訴訟等の既存の制度をもっと活用して行政や議会を変えてほしいと願っています。

